

## 第2回大野市都市マスタープラン改訂委員会の会議結果の概要

日時 令和2年11月17日(火)

午後6時30分～

場所 結とびあ(大野有終会館)

302号室

### 1 開会

### 2 協議事項

- ・現マスタープランの検証と課題の抽出について・・・資料に基づき説明

#### 【委員のみなさんの主な意見】

- アンケートによって市民の意識が浮き彫りになった。まちづくりに積極的な変更を望んでおり、市民が前向きであると感じた。10年後の大野市についてどうしていくかについては、行政主導ではなく、市民の声を反映できるものにしてほしいという意見が多い。何か別の方法で市民の意見をくみ上げられる工夫が必要。
- 「カンケイ商店」はニューノーマルのまちづくりに関する事例である。このようなインフラ整備を市としてどうするのかは大事な課題である。若い方がまちづくりに積極的に関わっていることはとても素晴らしいこと。こういった動きを支援していくのも1つの方策。
- カンケイ商店とマスタープランを絡めて考えると、個人で小回りの利く動きと、行政の旗振りのもと進むエネルギーの大きな動きと、双方のいいとこ取りをすれば良い。行政主導で大きな力が出るが時間がかかってしまう。個人であればスピーディな動きが他に伝播していく。アンケートでも市民と行政の共助を望む人が多かった。行政の動きを期待しつつ、市民自らも動いていく形が出来ていくと良い。
- 人口は減少し世帯数も減る予想であり空き家はさらに増加する見通し。やはり人口減少を前提にまちづくりを行わないといけない。インフラ整備によって交通の便が良くなるのがチャンスである一方でマイナスともなる。チャンスは問題点も生むという視点が必要である。これからは行政がとか民間がとか言っていられないレベルでまちの衰退が進んでしまう。民間と行政が一緒に知恵を出し合いながら、スピード感を持つことが必要である。
- 市街地をどう活性化させていくかが大きな課題である。中京方面から人を呼び込む手段を真剣に考えなければならない。イベントなどをいかに利用して、定住者になり得る観光客を呼ぶかという視点も必要。今あるまちの中にいかに呼び込んでいくかにしぼって考えるのも良い。

- 成熟社会に対応するまちづくりということで、大野市は割とコンパクトなまちづくりがなされてきているが、市街地周辺部の集落の持続性に関してどう対応していくか。地域別構想をしっかりと考えながら地域のまちづくりを進めていくことが必要。
- 市外の友人を大野市へ招くと、まちなかの風情が良いなどいいイメージしか聞かない。統一した景観への補助は良い。もっとスピード感をもって民間の整備を進めれば城下町のブランディングができ、極端に若者が少ないまちなかへの興味や移住への関心を産むことが出来るのではと考えている。
- 子育てをする世代にとっては、屋内で過ごせる施設があるとよい。加賀市の廃校となった校舎を活用した施設を利用しているが、大野市においては、これから小中学校の統廃合によって使わなくなる校舎の活用について気になっている。越前市のだるまちゃん広場のように遊具があつてカフェが併設されていて大人も子供も長時間過ごせる施設が近くにあると良い。
- 急激な人口減少を避けるために、子育てや教育に力を入れてほしい。また、人口減少が進むと農地の維持管理が難しくなる。観光についてはグローバル化が進むほどにローカルが重要であり、大野にしかないものが重要となる。中部縦貫自動車道のインターチェンジができることはチャンスであるが、いかに市街地への誘導をするのかといった仕掛けが重要である。
- 青年会議所でもまちづくりに関して色々な取り組みを行っている。まちづくりを進めていく中で、若者の中でやりたい事がある、起業したいといった人は大野市にいと捉えている。
- 熱心に活動している人やグループの連携を深めて行政が支援して、大野の中で人が積極的に動いていけば必然的にまちは良くなっていく。方策のヒントとして、まちなかに住む人、周辺の農村集落に住む人、それぞれの生活があつて大野市が成り立っている。周辺部の生活がまちなかにも影響してまちが成り立っている。そういった関係をお互いに理解できるシステムがあると良い。
- 世代が変わるにつれて、地域の農道の草刈や排水路の管理などに携わる意識が軽薄となってきている。農事法人化によって、大野に住み続ける意識の希薄化が進むことになると危惧している。また、集落営農も個人農業も後継者がいなくなつてきている。
- 農地を集約して大規模化している人が農業を支えているというのが今の方向性。これによって農業離れが進み、用水の泥上げなどに関りを持ちたがらないようになる。この意識の修正をする必要がある。
- 地下水と農地をどう共存させていくかが重要。涵養地域の農振除外など地下水の涵養について真剣に考える必要がある。

- 農村部にとって一番恐ろしいのは限界集落化していくこと。農地を法人に預けた後にコンパクトシティの話を知ると離村のイメージが湧いてしまうのではないかと懸念する。
- コンパクトシティという言葉が良くない。新しい開発を進めるのではなく、農村部も市街地も暮らしを維持していくということである。
- 新たな生活スタイルが多様化する中で、市民の中に専門とする人が増えていて、行政が方向性を示すだけでなく、市民の力を活用していくというスタンスの方が解決できるものがある。課題に対して市民の皆さんに力を貸してくださいといった表現をしてはどうか。

### 3 その他

### 4 閉会